

# 木の日研修「子ども達に伝えたい環境教育」

【開催日】2019年6月6日(木)

【開催場所】林友ビル 6階会議室

【主催者】森林インストラクター東京会(FIT29 福樹会)

【講師】遠藤正氏(FIT5)

【一文紹介】環境学習の歴史的な経過と、FIT活動の視点から考えた具体的な実践例の紹介

【公開記事】

## 1. 環境学習の歴史的な経過

・公害が激しくなった1949年の東京都公害防止条例制定から、1970年代の公害対策の推進と尾瀬などでの有料道路建設問題、1987年のバブル期での都市住民の都市農業への疑問などが、元小学校教員としての立場から話された。

・1990年は日本環境教育学会が発足した環境教育元年で、書籍への再生紙の使用が進み、自然の中で遊ぶなどの原体験の大切さをアピールする書籍が発刊され、子供達が環境に対して関心を持つようになった。

・1991年に森林インストラクター制度が発足し、1992年に小学1・2年生の「生活科」が施行され、現在の総合的な学習に発展。

・2015年SDGs(持続可能な開発目標)が国連サミットで採択された。2019年森林環境譲与税が創設され、今後森林環境税が環境学習推進の追い風になることが期待される。

## 2. 子ども達に伝えたい持続可能な環境教育

・1976年から蚕の事を教員として子供達に伝え、クワの樹皮で和紙を作る事に取り組んだ。

・木材の利用に取り組んだ。杉波パズル(杉板を利用した知育教材の製作)

ものづくりを楽しむことができる子供の育成(組み木や糸鋸による木材加工の楽しみ)

・背負椅子(しよいす)製作 木材を使った椅子兼背負子の製作で発展途上国の学校援助として利用

・科学に興味を持つ子供の育成のため、科学の力を借りて環境に関心を持ってもらうことが必要。

### ■まとめ

自然環境を知る観察会は、原体験として大切であり、健康であることの喜びが実感できる。

ボランティアが報われない時代ではあるが、持続可能が重要で、今後森林環境税などの活用を図る必要がある。地球温暖化による異常気象が心配されているが、逼迫していない国が、みんながライフスタイルを変えることを考えられる教育が大切と話された。

今回の研修で70年に渡る環境教育の歴史を確認でき、講師の様々な環境教育の取組は研修に参加されたFITの皆さんの参考になったと思われる。

【参加人数】32名(内訳:FIT 32名)

【報告者名】29年 加藤 勝康

【報告写真枚数】4枚

